

## 公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	個別療育センター 結いの虹 長居教室			
○保護者評価実施期間	2025/1/21 ~ 2025/2/5			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2025/2/6 ~ 2025/2/6			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月4日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものニーズに合わせた療育の提供ができる。	◇個別のセッションルームを使用し、一人ひとりの子どもに合わせた構造化をして、療育を実施している。 ◇子どもに合わせた療育理論を用い、教材を使用している。 ◇エビデンスのある療育理論を基に療育を展開している。	◇療育理論を学び、実践していくための体制づくり。 ◇職員間の療育の差を最小限にとどめるためのフォローアップ。
2	保護者支援を実施している。	◇個別の相談会の実施。 ◇ペアレントプログラム(ふれあいペアレントプログラム)を実施し、子育ての学びの機会、保護者同士の連携を支援しています。 ◇セッション場面の見学や、セッションへの参加を通じて、子育てについての協力関係を深めています。	◇より多くのペアレントプログラムや個別相談会を実施できるようにするための体制づくり。 ◇保護者支援を行った内容の全職員への情報共有を高める。 ◇保護者支援についての勉強会の実施。
3	静かで落ち着く空間の提供。	◇掲示物を最小限にし、それぞれのセッションルームを分けて、刺激を最小限にしている。 ◇清掃をルーラ化し、隅々まで綺麗にしている。 ◇収納場所を確立し、整理整頓を徹底している。	◇清掃についても、さらに充実させる。 ◇不要になった物の処分を行い、整理整頓をより進める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部と活動する機会がない。	◇1回1時間以内の短時間での療育の提供の為、外部との接触を図ることが難しい。	◇外部との接触をしやすくする為の施策を考える。(掲示板による案内、保護者相談会等)
2	運動面へのニーズに応えにくい。	◇トランポリンや踏み台昇降、体操、筋トレなどのプログラムを行うことはありますが、運動に特化した設備に関しては少ないです。	◇生活に必要な椅子に座る、歩く、物を操作する等も運動と考えることはでき、その点についてより専門的に支援を組み立てていく。
3	教室によって幼児向けの大きさではない机や椅子を使っている。	◇時間帯によって、小学生コースの教室を使わざるを得ない場面があるため。	◇小学生コースの教室で、幼児にも対応できるような机、椅子の設置を図ります。